



日本学術会議 総合工学シンポジウム

社会が受け入れられるリスクとは何か

日時 2013年9月5日(木) 13:00-17:30

場所 日本学術会議講堂

東京都港区六本木7丁目22-34東京外口千代田線「乃木坂」駅徒歩3分

地震、津波などの自然災害に加えて、現代社会では交通事故、原子力災害、気候変動など人間活動が原因となるリスクも増大している。しかし、リスクをゼロにすることはできない。社会としてどの程度のリスク水準なら受け入れられるのかという問いは、人工物に関する新しい学術として科学・技術全体にまたがる問題を扱う総合工学における重要な課題である。本シンポジウムでは、リスクに関する学術的検討を踏まえて、福島原子力事故後特に関心が高まっている低レベル放射線被曝や原子炉過酷事故のリスクに焦点を当て、社会が受け入れられるリスクについて考える。

プログラム

総合司会：渡辺美代子（日本学術会議会員・総合工学委員会幹事、科学技術振興機構フェロー）

- | | | |
|-----------------|--|---------------------------------------|
| 13:00-13:10 | 開会挨拶 | 小長井誠
(日本学術会議会員・総合工学委員長、東京工業大学教授) |
| 13:10-13:50 | 安全目標の構築 | 松岡猛
(日本学術会議会員・総合工学委員会幹事、宇都宮大学) |
| 13:50-14:30 | しきい値なしモデルとリスク受容の課題 | 中西準子
(産業技術総合研究所フェロー) |
| 14:30-15:10 | チェルノブイリ事故の経験から | 柴田徳思
(日本学術会議連携会員、日本アイソトープ協会常務理事) |
| 15:10-15:50 | 原子力過酷事故リスクについて | 松浦祥次郎
(日本原子力研究開発機構理事長、原子力安全推進協会代表) |
| 休憩(15:50-16:10) | | |
| 16:10-17:25 | パネル討論 リスクの社会的受容における学術の役割(仮)
モデレータ：山地憲治（日本学術会議会員・総合工学委員会副委員長、地球環境産業技術研究機構(RITE)理事・研究所長）
パネリスト：各講演者（松岡、中西、柴田、松浦） | |
| 17:25-17:30 | 閉会あいさつ | 山地憲治(前出) |

**参加費無料 事前申込不要 先着順
定員300名**

* 入場時にお名刺またはご記帳いただきます

お問い合わせ

那須野浩美・山口麗（地球環境産業技術研究機構 RITE）

E-mail: nasuno2@rite.or.jp uryamagu@rite.or.jp

TEL: 03-5510-2594



会場へのアクセス
東京外口千代田線「乃木坂」駅5番出口1分